

演題:「アルコール性慢性膵炎による縦隔内膵仮性嚢胞を呈した 1 例」

徳之島徳洲会病院 初期研修医  
札幌東徳洲会病院二年次 高山 寛己

抄録；

はじめに、膵仮性嚢胞とは膵内あるいは膵周囲に形成された中空の構造で、壁に囲まれた内腔に、膵液、粘液、血液などの内容物を容れたもので、嚢胞壁内腔面に上皮細胞を認めないものである。

今回我々は、アルコール性慢性膵炎による膵仮性嚢胞が縦隔内まで及んだ症例を経験したので報告する。

症例はアルコール性慢性膵炎、膵性糖尿病（インスリンユーザー）の既往のある 57 歳男性で、意識障害を主訴に当院に救急搬送。低血糖の診断、糖尿病コントロール目的で入院・加療となったが、インスリンの使用の有無が不明であったため低血糖の原因精査目的で造影 CT 施行したところ、縦隔内にまで及ぶ膵仮性嚢胞を認めた。

当院では治療困難と考えられたため、関東の大学病院へ紹介。その後内視鏡的にドレナージを行い、現在も治療中とのこと。

アルコール性慢性膵炎の合併症として膵仮性嚢胞は珍しい症例ではないが、縦隔内にまで仮性嚢胞が進展している症例は少ないため、今回文献的考察を行った。